

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(78)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(78)—

1. 始めに

前報(77)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

CBS Sony SOCF 1111

モーツアルト 交響曲第 36 番ハ長調「リンツ」

交響曲第 39 番変ホ長調

ブルーノ・ワルター指揮コロンビア交響楽団

ニューヨークフィルハーモニック

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS Sony 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

交響曲第 36 番はコロンビア交響楽団の演奏、交響曲第 39 番はニューヨークフィルハーモニックの演奏で、いずれも 1950 年代のモノラル録音です。

交響曲第 36 番は、録音も古くモノラル盤ということで、音質的には期待できませんが、勢いのある演奏です。

交響曲第 39 番は、これも録音も古くモノラル盤ということで、音質的には期待できませんが、アメリカのオーケストラらしく、壮大で勢いのあるモーツアルトで

す。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal Eなどの総合的な効果として、録音も古くモノラル盤ですが、2 楽団の演奏上の特徴が把握できました。

以上